

令和6年度

講評と対策

入学試験問題

四天王寺中学校

国語

問題内容

- 一『目的への抵抗』
國分功一郎著(新潮新書)
- 二『世界地図の下書き』
朝井リョウ著(集英社出版)
- 三『ひとかけらの木片が教えてくれたこと』
田鶴寿弥子著(淡公社)

配点

46点

44点

30点

出題の意図

- 「消費」と「浪費」を対比し、現代の「消費社会」が抱える問題点を読み取る。
- それぞれの登場人物像を整理し、佐緒里の独立に対する太輔の複雑な心情を読み取る。
- 古代の日本人がどのように木と向き合ってきたかを読み取り、未来に向けた人と木の共生の重要性を読み取る。

各問題講評

【書き取りについて】

- よくできていたが、文脈を考えて書いてほしい。
- 【一】問1(正答率85%)「感心」と「関心」のかき分けはできている。「根定」の誤答多い。
- 【二】問1(正答率70%)「臨」「退」の誤答あり。文脈を考えて答えること。

【文の構成】

- 指示語や傍線部の前後に注意して、文脈をしっかり理解してほしい。
- 【二】問3(正答率75%)
設問で何を問われているかつかみ、正確に抜き出すこと。
問7(正答率75%)
会話文からその登場人物が抱えている背景を正確に読み取ること。

【三】問1(正答率80%)

- 前文から古代の日本人が「木材の物性」だけでなく「象徴性」をもたせて利用してきたことをつかむ。
- 問6(正答率55%)
筆者の主張でもあるので、最後の段落から読み取る。「重要」という言葉に注目、字数を考える。
- 問7(正答率20%)
空欄すぐ上の「そうだった」の指示内容を踏まえられなかった。「再生」「回生」の誤答が多かった。

【ことばの問題】

- 文中での意味を正しく理解できるようにしてほしい。
- 【一】問4(正答率90%)
よくできていた。
問7(3)(正答率70%)
会話文の、文脈にあう四字熟語が選べていなかった。
- 【二】問4(2)(正答率95%)
よくできていた。

【抜き出し問題】

- 「比喩表現(何を何にたとえているか)」等、質問内容をよく理解してほしい。誤字脱字のないようにぬき出してほしい。
- 【一】問2(正答率70%)
指示語の問題。キーワードの言葉の定義をおさえてほしい。
問3(正答率90%)
内容は捉えられている。「限界」の内容を問われているのに「支出」の部分抜き出している。
問7(4)(正答率70%)
本文についての会話文を通して、本文の内容を理解しているか問われている。全体の要旨を理解すること。
- 【二】問2(2)(正答率95%)
人物像の把握、よくできていた。
問6(正答率80%)
人物関係の整理。それぞれの登場人物の関係を意識して読む必要がある。
問8(正答率35%)
比喩の読み取り。「砂でできた宇宙」より「グラウンド」を読み取る。
- 【三】問2(正答率90%)
後のイチョウの例を踏まえて、木から得た力は何かを読み取る。

【客観問題(選択肢)】

- 比較的正答率は高かった。
- 【一】問6(正答率75%)
多かった誤答はアウ。後の「つまり」以下の言い換えから「違和感」を「なんとなくの反発」ととる。
問7(1)(2)(正答率90%)
本文の中でのそれぞれの「本」の役割をつかめているか。よくできていた。

【二】問2(1)(正答率80%)

- 小説は人物像を正確につかむことが重要。
- 問4(1)(正答率95%)
「佐緒里がずっとずっと遠くへ行ってしまう確率」に着目し、そのことを受け入れたくない思いをつかむ。
- 【三】問3(正答率80%)
多かった誤答はウ。何の例なのかを傍線部より前にあるか後ろにあるか考えて答えること。
問5(正答率55%)
多かった誤答はイとエ。古代の人と自然の関係をつかむ。自分の考えで選ばないこと。

【記述問題】

- 傍線部をしっかり読み取り、何を問われているかを正しく理解して解答してほしい。また主語と述語の関係をおさえた上で、必要なことばを選んで書いてください。決して本文をそのまま書き出して解答しないこと。
- 【一】問5(正答率50%)
「なぜか」の後の部分の抜き出しが多い。前段から「浪費」と「消費」を比較して、「消費」は「満足をしないう」ことも解答要素としては必要。
- 【二】問5(正答率20%)
対象が「麻利」であること。「学校、楽しいか?」と聞いていることから、太輔が「心配」していることをつかむ。
問9(正答率20%)
後から望む内容として「みんなひとつ」と「みんなバラバラ」を具体的に置き換えること。また「目がじわじわ熱くなる」という身体現象は「乱暴な衝動」からきていることをつかみ「混乱・複雑」などと置き換える。この「衝動」まで正しくつかめているものは5%程度であった。
- 【三】問4(1)(正答率20%)
資料Ⅱより「厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花」に新しい時代への希望を願ったのである。「梅」が「春」に「真っ先」に咲くことを押さえる。
問4(2)(正答率50%)
「二つの資料を合わせて読み」という設問の意図をつかめていない。複数テキストを読むことになれてほしい。「それぞれの花を大きく咲かせる」という資料Ⅱの比喩表現の解釈ができていない答案がほとんどであった。比喩表現はきちんと説明すること

次年度入試 アドバイス

出題傾向はここ数年大きく変わっていません。大学入試を見据え、長文の小説や現代社会の問題に関わる文章を出題しています。小学生の話言葉にはない少し古い文章語や、抽象的な概念を表すことばを用いた文章に慣れることが必要です。普段から小学生でも読める評論(例えば岩波ジュニア・ちくまプリマー・ブルーバックスの新書)、文学的な小説などを意識して読み、表現力を身に付けてください。

また本年度は複数資料、生徒の会話文などから考える問いを出題しました。その結果読む量は増えたので、早く読み、的確に論旨をつかむ力が必要です。正しく解くためには小説、評論のジャンルにかかわらず、問題本文はもちろんですが、設問の読み取りは大切に、語彙力の有無は大きく作用します。求められていること(何が何にたとえられているか等)を限られた時間内に答えることを意識し、時間をはかって解答する練習をしてください。傍線部周辺を参考にして、とりあえず解答を作成していくのではなく、文章を確実に理解しキーワード・キーセンテンスを用いて記述問題に取り組み、練習することで書く力が身につけていきます。

社会

問題内容

配点

出題の意図

1 【地理分野】 日本と世界のつながり	22点	日本と諸外国とのつながりや関係性を、地球上の相対的な位置や交通や人の往来、貿易など経済問題など、多面的に問うた。
2 【歴史分野】 原始・古代～江戸時代	18点	原始・古代から江戸時代の政治・外交・文化に関する知識・理解を様々な資料を用いて問うた。
3 【歴史分野】 幕末～現代	16点	幕末から現代の政治・外交・経済に関する知識・理解を、時期区分やグラフ・地図と組み合わせて問うた。
4 【公民分野】 時事問題など	22点	2023年の1～9月までの日本や世界で起こったニュースをとりあげ、社会的な事象に関心をもって見るとともに、基本的人権や地方自治などについての知識を問うた。

各問題講評（具体的に）

- 今回は、日本の特定の地域を取り上げるものではない。またグラフ、表など統計データの読み取りなどの比率を高めた。だが、傾向が変わったわりに全体として得点率は半分を優に超え、予想以上に高かった。しかし、地理的な知識を問う問題とデータ読み取り問題が、受験生によって正答できた部分が異なる印象である。
- 全体的に得点率は高く、古代から近世における歴史（中国の歴史含む）の基本的知識を身につけている受験生がほとんどであることがよくわかった。一方で、問8「歌舞伎」の漢字（とくに伎）が書けていない受験生が多かった。
- 全体的に得点率は高かったが、問1や問3で問うた経済に関する理解にばらつきが見られた。問3の論述問題は、経済面での「影響」について、しっかりと書けている受験生が多かった一方で、関税自主権の説明を解答していたり、領事裁判権の説明を書くなど関税自主権の理解そのものを誤っている受験生も目立った。
- 正答率は全般的には高かったが、最後の[岸田内閣の女性大臣の人数]を問う問題の正解率が低かった。SDGsでジェンダーの平等が取り上げられていることもあり、今後もSDGsに関連する時事問題にも注目してほしい。また、時事問題の背景にある政治制度や法律・憲法にも目を向けて、知識を深めて欲しい。

次年度入試 アドバイス

1【地理分野】

単純に用語を暗記するだけでなく、その用語を説明できるような学習も必要です。また教科書や地図帳に載っているグラフや表は必ず見て欲しいが、その数字を暗記するだけでなく、そのデータの中にどのような特徴があり、どのような事柄が読み取れるかを考える習慣をつけてください。これは特定の地域を取り上げて、その特色を見ていく問題を学習する時にも必要になる能力です。

2【歴史分野】

基本的な歴史用語を、正確に漢字で書けるようにしましょう。歴史用語・できごと・人物が、いつの時代のものなのかという「時期区分」の把握が重要です。また、歴史的出来事の内容はもちろんですが、歴史地理・因果関係・背景などと結びつけながら学習をしましょう。また、教科書等に掲載されている写真などの資料を読み込み、視覚的な理解にも努めてください。文化や経済分野の学習にも、しっかりと取り組みましょう。

3【公民分野】

時事問題の学習が大変だと思いますが、入試の直前にまとめるのではなく、日々気になったニュースを記載するノートを作りましょう。そして教科書の内容とその出来事がどのように結び付くかをメモしておく、入試前の学習ノートになります。さらに、背景にあるものや影響まで関心をもってください。その際には、なるべく偏見を持たずに、多様な考えを持ってとらえる姿勢を持って欲しいと思います。

4【全般】

地理分野・歴史分野・公民分野を全体的にバランス良く学習してもらいたい。その際には資料の読み取りや文章を読み内容を把握できる「読解力」が大切である。読んで丸暗記するだけでなく、考える習慣を持ってほしい。また、社会の出来事に広く関心をもつことや、「なぜそのようなことが起こったのか」、「それによって、社会にどのような影響を与えたのか」という観点からも「暗記ではなく考える習慣」を身につけることは大切である。その上で、できればそれに対する自分の考えを持ち表現できるようになればベストであろう。あと、漢字などのミスに気をつけてください。

算数

問題内容

配点

(120点満点中)

出題の意図

1. 計算小問2問	14点	四則混合の基本計算が正確にできるか。
2. 文章題(ニュートン算)	13点	基本的な文章題が解けるか。
3. 文章題(新記号・場合の数)	19点	記号の意味を理解し、場合の数を求めることができるか。
4. 平面図形(面積・線分比)	18点	相似な図形の線分比や面積を計算できるか。
5. 文章題(旅人算)	19点	問題文から情報を正しく読み取り、速さ・時間・距離を求められるか。
6. 文章題(日暦算)	18点	うるう年を含む暦の計算ができるか。
7. 立体(通過領域の体積)	19点	円錐が通過してできる立体の形がわかるか。その体積が計算できるか。

各問題講評

正答率(概算)

- ①95% ②95%
- ①65% ②65%
- ①95% ②80% ③45%
- ①90% ②75% ③55%
- ①70% ②50% ③40%
- ①ア60% イ60% ②ウエ30% オ70% ③30%
- ①70% ②75% ③30%

【講評】

- ①②は基本の計算です。いずれもよくできていました。
- 基本のニュートン算です。はじめの牧草の量と1日に生える牧草の量を問題文の条件から求めます。典型問題は素早く解けるようにしておきましょう。
- 新記号と場合の数の問題です。 a, b に整数を当てはめて考えましょう。
①②はよくできていました。
① b は7,8,9の3個 ② a は66から76までの11個です。
③ $b=1$ のとき、 $b=2$ のとき、…… $b=9$ のとき、それぞれ a が何個あるか数えます。 $b=9$ のときだけは a が99,100の2個しかないことに注意しましょう。
- 相似な図形の線分比と面積の問題です。よくできていました。
① 簡単ですね。
② HとFを結びとわかりやすいでしょう。
③ HFとEGの交点をMとして、MK:KG=1:1、HL:LG=3:2を使って、三角形LKGの面積を考えます。
- 旅人算です。今回は、ダイヤグラムは不要です。さて、Aさんは1kmを30分で歩いては10分間休憩します。①を間違っても②③が合わなくなるので、慎重に計算しましょう。
① Aさんは6時間歩き、1kmごとに10分ずつ11回休憩しています。合わせて7時間50分です。
② Bさんは7時間20分で往復しています。登りの所要時間は下りの所要時間の1.2倍です。
③ Cさんは9時間で往復しています。登りの所要時間は下りの所要時間の半分です。
- 今年のはうるう年ですね。曜日は7日ごとに繰り返すから、7で割った余りで考えます。曜日はよくできていました。日数は計算を間違わないように、1日ずれないように、気をつけてください。
①②今日から2023年2月22日まではうるう日は含まれず、今日から500日後にはうるう日が含まれることに注意しましょう。

- うるう年は4年に1度、曜日は7つあるから、4と7の最小公倍数である28年後に曜日が一致します。
- 円錐が通過する部分の体積を求めます。底面の円と円錐の頂点の動きを追跡しましょう。①②はよくできていました。よく演習できていますね。③は、①②の考え方を組合せます。
① 円錐を縦に2つに切ってできる底辺6cm高さ5cmの二等辺三角形が通過してできる高さ10cmの三角柱の両側の底面に、円柱の半分をくっつけた立体になります。
② 底辺6cm高さ5cmの二等辺三角形を、Oを通過して台に垂直な直線を軸として1回転させた立体、つまり円錐台から円錐をくりぬいた立体になります。
③ 三角形の辺に沿って動くときは高さ10cm、14cm、6cmの3つの三角柱、角のところは3か所合わせると②で考えた立体になります。

次年度入試 アドバイス

計算力はすべての問題の基本ですから、早く正確にできるようによく練習しておきましょう。また、全体をながめ計算の工夫が自然にできるように、ふだんから心掛けて取り組んでおいてください。

計算問題や小問集合、大問の①②は基礎的な問題が多いので、日頃から数多く基礎を練習し、素早くそして確実に正解できるようにしておきましょう。

後半の大問の文章題は、型にはまった問題が少なく、公式や解法の丸暗記では解くことができません。問題文をしっかり読んで内容を十分に理解した上で、図を描いたり、書き並べてみたり、表・グラフ・ダイヤグラムを作って利用するなど、その場で解法の糸口を見出せるよう、ふだんから思考力と試行力を養っておいてください。

平面図形の問題は、図形を並べ替えて面積を読み取ったり、折り返したり、対称性を利用したりといった特徴を活用できる目を養うことが大切です。

立体については、立体を積んだり傾けたり切ったりして、頭の中で立体が考えられるようにしたいものですが、複雑な場合は断面図や展開図を描いて視覚化する練習もしましょう。

本校の過去の問題を見ればわかるように、難問・奇問(特に、小学校の学習指導要領の内容を超える分野)ばかりを練習する必要はありません。標準レベルの問題を自分で十分に理解、納得して解くという勉強の姿勢が大切です。

理科

問題内容	配点	出題の意図
1 (生物分野) 動物のからだのしくみ	20点	動物の血液循環と心臓のつくりを題材に、基本知識をもとに文章や図を読み解き、そのしくみを考察する力を試した。
2 (化学分野) 化学変化の量関係	20点	物質の性質などに関する知識と化学変化における物質の量(重さ)の関係について、実験結果などから考察する力を試した。
3 (地学分野) 湿度	20点	乾湿計の読み方や(相対)湿度の定義を文章から理解し、使えるようになる力を問うた。正しく理解できているかを、イメージ図、文章での表現、数値計算で確認した。
(物理分野) 4 ばねの力と浮力を含む 力のつりあい	20点	ばねを引き上げていくようすや、水を注いでいくようすなど、状況に合わせて物体にはたらく力を正しく理解できるかを試した。

各問題講評

- (1)~(3)の基本的な知識問題はよく出来ていた。(4)~(7)の文章を読んで正しい図を選び、しくみを考えていく問題で差がついた。例えば、(4)のヒトの心臓のつくりは模式図で示されており、血液の流れを確認しながら解くことが必要である。同様に、(5)以降のカエルの心臓や血液循環についての応用問題も、問題文と設問にしたがって正しく考えていけたかどうかで、得点差が大きくなった。
- (1)~(3)の基本問題はよく出来ていた。複数の解答が考えられる(4)は、「急激に発熱することがあるから」のように経験などをもとにした具体的な記述を正答とした一方、「危険だから」など具体例のない記述は不可とした。(5)は与えられたデータをグラフを作成するなどして分析し、その結果から考察する二段階の試行が必要で、正答率は5割程度であった。物質の量関係(比)を考える(7)(8)では、基本的な(7)は比較的出来ていたが、応用的な(8)では情報の整理ができなかった受験生が多かった。
- 問題文の誘導にしたがって思考を進め空欄を補充する形式で、乾湿計や(相対)湿度について正しく理解できたかどうかで得点差がついた。(4)など単純な問いはよく出来ていたのに対し、(2)(5)など思考や計算に緻密さが必要になる問いの出来がよくなかった。また、問われている「示度差」「水蒸気量」ではなく「示度」「飽和水蒸気量」を答えたり、解答すべき順が逆になっていたり、文章や指示をきちんと読めていないと思われるような勿体ない誤答が多数みられた。
- (1)の基本問題、(3)の実験のようすを具体的に考えて表の空欄に数値を入れる問題はよく出来ていた。一方、応用的な(4)(5)の出来がよくなかった。(5)では、誘導に従って、物体にはたらく力を的確に捉えられない受験生が多かった。最後の大問でもあり、時間が不足し、落ち着いて考えられず正答に至らなかったことも考えられる。

次年度入試 アドバイス

例年、実験・実習・観察に関する内容や、身の回りの科学現象について考える内容を出題している。また、図や表の読み解き、グラフ描画、記述問題も必ず出題しており、これらの問題で差がつきやすい。知識は基礎的なもので十分だが、問題文や設問の情報を整理し、論理的に筋道を立てて考える力を培ってほしい。

- ・実験や観察、身近な科学現象などについて、日頃からそのしくみの理解に努める。
- ・文章を素早く正確に読み取り、内容を正しく理解する力をつける。
- ・答えとして何が求められているかをしっかりとつかむ。指示を読み飛ばさない。
- ・グラフや図、表の読み取りや描画を素早くできるように練習する。
- ・基本的な計算力をつけ、定番問題の計算は算出過程と根拠を大切にしながら演習する。
- ・用語は漢字で正確に、文章は内容が伝わるように意識して書くようにする。